



2017

NIDEK CSR Report



THE ART OF EYE CARE

編集方針

株式会社ニデック（以下、当社）は、いつの時代も存在意義のある企業で在り続けるために、「Eye & Health Care」を核とした事業をグローバルに展開するとともに、国内外の法令およびその精神の遵守はもとより、高い倫理観と公平性をもって行動し持続可能な社会の発展に貢献することを念頭に置いています。

この報告書は、当社の環境・社会への取り組みに関する企業の活動内容を、さまざまなステークホルダーの皆さまにお伝えすることを目的に作成しました。

本報告書「CSR報告書2017」は、2016年度の情報をまとめたものです。

■ 参考にしたガイドライン

ISO26000（社会的責任）

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第4版」

報告書プロフィール

報告書基本情報

報告対象組織： 株式会社ニデック

本社（拾石工場）

浜町工場

鶴ヶ浜工場

東浜工場

大沢工場

報告対象期間： 2016年4月1日～2017年3月31日

発行日： 2017年7月3日

作成部署： 企画部 広報課

お問い合わせ先

企画部 広報課

Tel: 0533-67-6753

Fax: 0533-67-6610

E-mail: info@nidek.co.jp

※ 当社に関する詳しい情報は、ウェブサイトをご覧ください

URL <http://www.nidek.co.jp>



CONTENTS

編集方針 / 報告書プロフィール	02
企業概要	03
トップメッセージ	04
CSRへの取り組み	05
2016年度のCSRの目標と結果	07
2017年度のCSRの目標	08

各種CSR活動について

情報セキュリティ	17
法令遵守	19
環境	21
品質	25
安全・防災	27
人権・倫理・社員	29
社会貢献	31

特集

周年行事のあゆみ	09
ネパール学校再建支援	11
眼内レンズの品質向上に向けた取り組み	13
女性活躍に向けた取り組み	15

企業概要

名 称	株式会社ニデック
本 社	〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜 34番地14 Tel. 0533-67-6611
代 表 者	代表取締役社長 小澤素生
設 立	1971年7月7日（創業日8月8日）
資 本 金	4億6189万円
売 上 高	335.3億円（2012年度） 372.7億円（2013年度） 402.4億円（2014年度） 393.3億円（2015年度） 393.7億円（2016年度）
従業員数	1,632名（男性：1282名 女性：350名） （2017年3月末日現在）

事業所

- ・工場
拾石工場、浜町工場、鶴ヶ浜工場、東浜工場、大沢工場
- ・営業拠点
札幌、仙台、埼玉、東京、横浜、蒲郡、
金沢、京都、大阪、高松、広島、福岡、千葉(営業所)
- ・海外現地法人
NIDEK INC. [アメリカ]、NIDEK S.A. [フランス]、
NIDEK TECHNOLOGIES S.R.L. [イタリア]、
NIDEK DO BRASIL [ブラジル]、
尼德克医療器械貿易（上海）有限公司 [中国]
NIDEK SINGAPORE PTE. LTD. [シンガポール]
- ・海外駐在員事務所
北京、ドバイ

事業内容



医療分野

眼科向け手術装置、レーザ機器、検査診断装置などの開発・製造・販売を総合的にこなっています。近年では、事業の場を健診分野にも広げています。



眼鏡機器分野

視力測定、レンズ測定、レンズ加工など眼鏡づくりに関わる製品を提供しています。



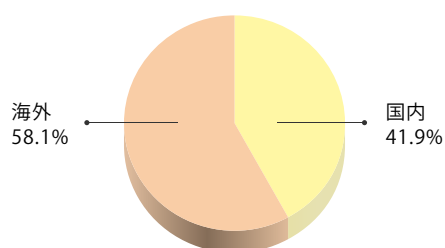
コーティング分野

コーティングは、光学材料などへの反射防止や、特定波長だけを透過・反射させる“光を操る先端技術”です。メガネレンズをはじめ、情報通信・自動車・医療・液晶ディスプレイなど、多彩な分野で活用されています。

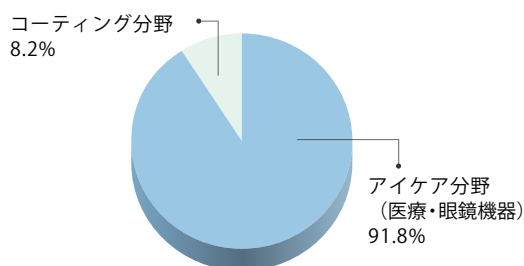


2016年度 売上比率データ

海外輸出比率



売上構成比率





喜びと感動をお届けする 企業で在り続けるために

代表取締役社長

小澤素生

創業時からの3つの想い

2016年8月8日、ニデックは創業45周年を迎えました。これもひとえに、ステークホルダーの皆さまのご支援とご愛顧の賜物と、心より感謝申し上げます。

当社は、1971年の創業以来、「見えないものを見えるようにしたい」、「見えたものを認識できるようにしたい」、「眼に関する優れた機器を作りたい」という想いのもと、医療分野、眼鏡機器分野、コーティング分野の3つの分野に事業を展開しています。

近年は、「目で培った技術をもとに、健康で快適な生活を提供したい」という想いを込め、疾病の予防や早期発見を目的とした診断機器、体に負担の少ない低侵襲な手術装置の開発、さらには再生医療やアンチエイジング・ヘルスケア商品を手掛けています。

創業45周年を迎えた2016年度の取り組み

当社が昨年度取り組んだ主な活動をご紹介します。

■ 眼内レンズの品質向上に向けた取り組み

2015年11月、眼内レンズの生産性向上を目的とし、拾石工場第7棟を増設しました。眼内レンズの開発から出荷までを本工場へ集約させ、眼内レンズの品質向上にも努めています。

2016年度には、眼内レンズ良品率プロジェクトを発足しました。品質工学の手法を用いて、さまざまな角度から分析し、キズ不良率を低減させました。

■ 女性活躍に向けた取り組み

2016年4月に施行された女性活躍推進法に基づき、

社員一人ひとりがより一層活躍できるよう各種制度を見直しました。2016年7月には、社員の継続的な勤務を促進することを目的とし、「配偶者同行休業規程」を制定しました。

■ メンタルヘルスケアの強化

近年、社員が安全で働きやすい職場環境を確保することは、各企業の大きな課題になっています。当社は、ストレスチェックを安全衛生において重要な活動と位置付け、社員のメンタルヘルスの不調を未然に防止する取り組みを実施しています。心身ともに健康で働きやすい職場環境をつくることのできるよう、今後も継続的に実施していきます。

事業を通じて社会へ貢献する

2016年は英国のEU離脱や米国の大統領選など世界的に予想外の大きな出来事が数多く発生しました。為替や株価など予想と違う動きもあり、日本経済も含め予測不能な『VUCA-WORLD』の時代になっていると感じています。

当社は、このような世の中の変化に適応できる会社でありたいと思っています。刻々と変わっていく状況に対応できる適応力を身につけるため、会社の風土や文化を見直す必要があります。最終的には、広く社会から信頼され、お客様に満足いただけるようなソリューションをご提供する会社になるよう邁進する所存でございます。

これからも、積極的により良い社会に向けて働きかける存在として、さらなる努力を続けてまいります。今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

CSRへの取り組み

◆ 企業行動憲章

ニデックは、いつの時代も存在意義のある企業で在り続けるために、「Eye & Health Care」を核とした事業をグローバルに展開するとともに、国内外の法令およびその精神の遵守はもとより、高い倫理観と公平性をもって行動し、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

1. 人権の尊重

全ての人々の人権を尊重し、差別的な取扱いや個人の尊厳を損なう行為をしません。また、児童労働や強制労働を認めません。

2. 透明性の高い企業活動の推進

様々なステークホルダーとのコミュニケーションを図るとともに、適宜適切に企業情報を提供し、透明性の高い企業活動を推進します。

3. 製品・サービスの品質・安全確保

人々が健康で快適な生活を送るために、新しい価値の創出に努めるとともに、安全で高品質の製品・サービスを提供し、お客様の満足と信頼が得られるよう努力します。

4. 環境問題への積極的な取り組み

地球及び地域環境保全の重要性を認識し、循環型社会形成に寄与する改善活動を継続的に行います。

5. 社会との調和

良き企業市民として積極的に社会貢献活動の推進に努め、地域社会との調和を図ります。また、海外においてはその文化や慣習を尊重し、地域の発展に貢献します。

6. 健全で快適な職場環境の実現

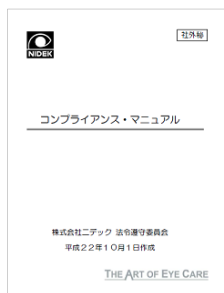
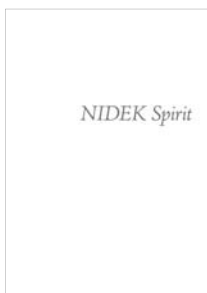
職場における社員の安全と健康を確保し、社員の経済的・精神的・時間的なゆとりと豊かさの実現に向け、働きやすい職場を形成します。

7. 反社会勢力との関係遮断

反社会的勢力とは一切の関係を持たず、不当な要求に対しては、外部専門機関と連携をとり、毅然とした態度で対応します。

経営トップは、この企業行動憲章の精神を実現することが自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に周知徹底します。万一この企業行動憲章に違反する事案が発生した場合は、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を明らかにし、原因究明、再発防止に努めます。

この企業行動憲章は、当社のCSR活動の基盤になるものです。社員がいつでも確認できるよう、コンプライアンス・マニュアルをはじめとする各種マニュアル、冊子、ウェブサイトなどに掲載されています。



(左):経営理念体系をまとめた冊子「NIDEK Spirit」。全社員が所有しています。

(中央):コンプライアンス・マニュアル。当社の企業活動に関するコンプライアンスについてまとめています。

(右):ニデック社員の行動指針。すべての職場に掲示しています。

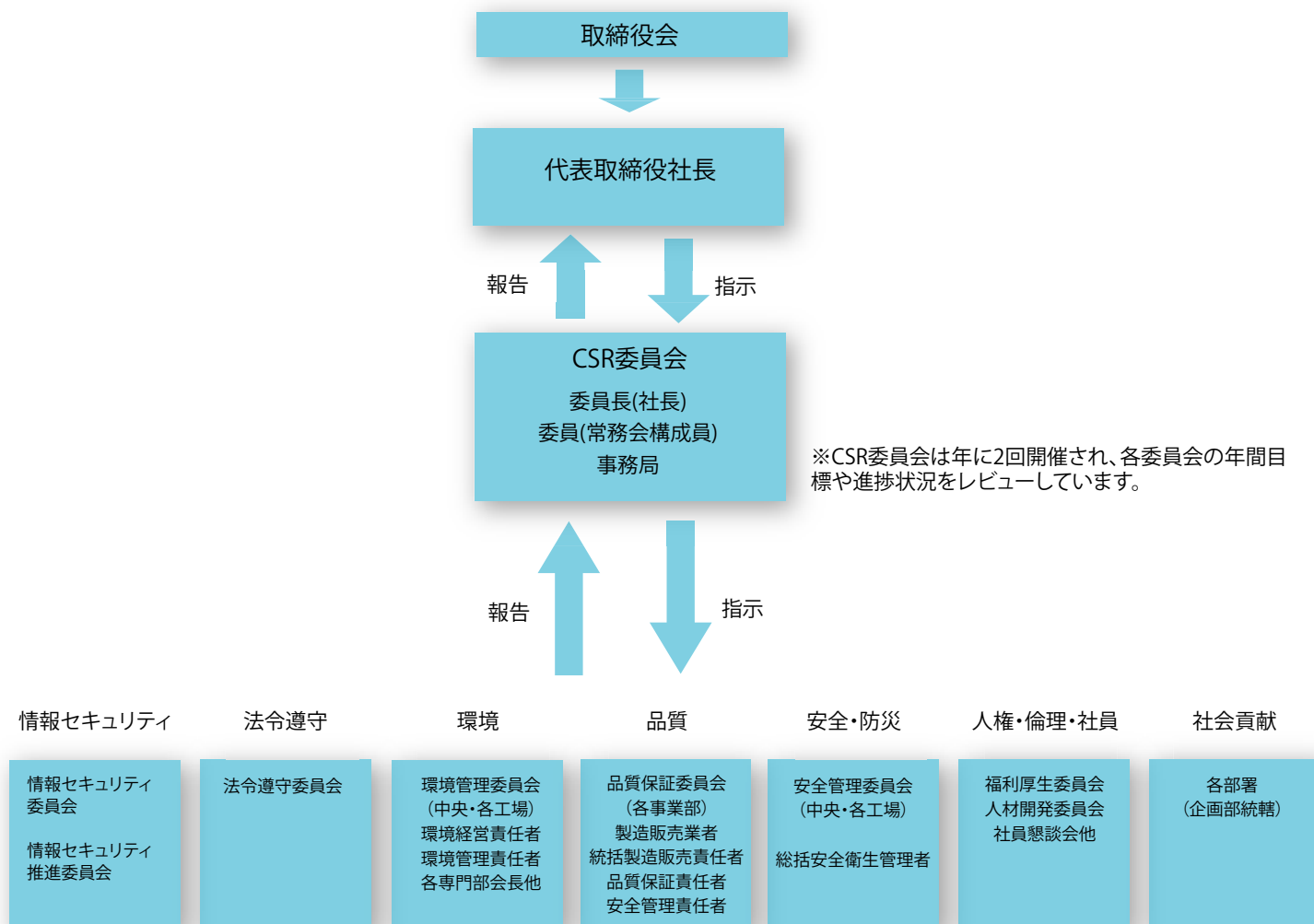
◆ ニデックのCSR体制

当社はCSR委員会を設置し、社会から信頼される企業で在り続けるために、当社の事業に合致したCSR活動を通じて、当社を取り巻くすべての利害関係者の皆さまと良好な関係を構築することを目的に活動しています。

CSR委員会の役割

1. CSRの方針、活動を企画立案する。
2. CSR活動の執行状況を監視、監督する。
3. CSRに関する情報の社内外への開示を管理し、また広聴活動を実施する。
4. CSRに関する教育、啓蒙をおこなう。
5. CSRに関する問題を解決する。また、その解決のために、自ら必要な調査を行い、または関係部署に必要な調査を依頼する。
6. CSRに関して是正措置の実施とその結果の報告を指示する。
7. CSRに関する各委員会および関連部署の取り組み・成果などを取りまとめる。

CSR体制図



CSRの目標と結果

ニデックはCSR活動について年度ごとに目標を設定しています。目標に対する結果と実績は、CSR委員会が確認・評価し、次年度の目標策定に反映されます。2016年度の目標と結果・実績、2017年度の目標は以下のとおりです。

2016年度の目標および結果

項目	2016年度の主な目標	2016年度の主な結果・実績
情報セキュリティ	● 外部機関によるISO27001サーベイランス 審査にて、継続確認を受ける ● 社外の情報セキュリティ対策の現状診断サービスを利用し今後の対策を検討、社員への認識強化を図る	● 2016年12月に実施されたISO27001サーベイランス審査で継続確認を受けた ● 情報セキュリティ対策の現状診断サービスの結果を踏まえ、規程の策定と、対策ハンドブックの作成を実施
法令遵守	● 職位、業務内容に応じたコンプライアンス研修による啓蒙活動を実施 ● 個人情報保護に関する教育強化	● 職位、業務内容に応じたコンプライアンス研修を実施 ● 反社会的勢力排除に向け、社員教育を実施。反社会的勢力の確認業務フローを整備 ● 個人情報保護について、職制への研修(eラーニング)および各部署での研修を実施
環境	● 環境法規制のレビューおよび必要措置の実施 ● 環境配慮設計の推進 ● EUのREACH規則、RoHS指令(カテゴリー8 医療機器)への対応 ● 売上比原単位電力消費量の削減(前年比1%削減) ● 売上比原単位廃棄物排出量の削減(前年比3%削減) ● 化学物質の適正管理 ● 著しい環境側面の低減(CO₂排出削減、騒音・振動の抑制など)	● 環境法規制のレビューを実施(海外221件、国内528件) ● 製品アセスメントを新製品2機種で実施 ● RoHS監査を3社実施 ● 売上比原単位電力消費量の削減:目標達成率99.0%と未達 ● 廃棄物総排出量:272.0 t/年間(前年度:316.7 t/年間) ● 最終廃棄物:1.1 t/年間(前年度:1.8 t/年間)
品質	● 品質マネジメントシステム(QMS)再構築の成果確認 ● 眼内レンズ製品の安定 ● COPQ売上比2.0%とする	● 部門内でのダブルチェック、品証部門によるトリプルチェックを徹底 ● 内部監査制度の見直し、CAPAプロセスの再構築を実施 ● 品質工学を導入し、眼内レンズ製品の良品率安定化を実現 ● COPQ売上比1.7%に減少
安全・防災	● 労災発生件数の撲滅、業務上の安全意識向上 ● 健康づくりの活動継続 ● 交通安全:死亡災害0件を維持、業務中当方責任交通事故件数の削減 ● 災害発生時の対応力強化、社員の防災意識向上	● 業務災害3件(昨年比 -7件)、通勤災害12件(昨年比 +5件) ● 危険予知訓練を実施 ● 健康増進のための活動「健康チャレンジ」を実施 ● 死亡災害0件を維持。業務中、出退勤途上当方責任交通事故46件(昨年比 -10件) ● 防災訓練を実施、普通救命講座を開催

人権・倫理・社員	● 研修の見直し ● 社外講師の活用継続と社内委員の研修関与強化 ● 次世代リーダー育成研修の検討 ● 社内クラブ活動の活性化促進	● 外部講師による年代・役職別研修を実施 ● 次世代リーダー育成研修の計画完了 ● 新入社員へのクラブ紹介を実施
社会貢献	● 「エコキャップ運動」の継続(目標:年間24万個) ● 古切手回収運動の全社展開(目標:年間1,200 g) ● 社内クラブの社会貢献活動への参加促進	● エコキャップ回収量:193,242個 ● 古切手(回収量:1,111 g)を視覚障害者支援センターへ提供 ● 12クラブ中8クラブが社会貢献活動に参加

◆ 2017年度の目標

項目	2017年度の主な目標
情報セキュリティ	● 外部機関によるISO27001サーベイランス審査にて、継続確認を受ける ● 情報セキュリティ規程の運用定着。情報資産の可視化・把握 ● eラーニングによる情報セキュリティ教育の継続実施
法令遵守	● 労務管理教育の実施 ● 個人情報保護法改正への対応 ● 秘密保持に関する教育の実施 ● 研究倫理教育の検討
環境	● 環境配慮型設計の推進 ● REACH規則およびRoHS指令の対象となる有害物質・禁止物質の排除。取引先RoHS監査の推進 ● 売上比原単位電力消費量の削減(2016年度比1%削減) ● 売上比原単位廃棄物排出量の削減(2016年度比3%削減) ● 化学物質の適正管理 ● 著しい環境側面の低減(CO₂排出削減、騒音・振動の抑制など)
品質	● 顧客への品質保証 ● QMSの継続的改善・定着確認 ● COPQ売上比1.6%以下とする ● ISO9001の認証登録更新
安全・防災	● 労災発生件数の撲滅、業務上の安全意識向上 ● ストレスチェックの実施、メンタルヘルス対策の強化、健康づくりの活動継続 ● 交通安全:死亡災害0件を維持、業務中当方責任交通事故件数の削減(36件以下) ● 災害発生時の対応力強化、社員の防災意識向上
人権・倫理・社員	● 次世代リーダー育成研修の実施 ● ビジネスカ(マーケティング、数字分析)向上研修の実施 ● 社内クラブ活動の活性化、新入部員の増加
社会貢献	● 「エコキャップ運動」の継続(目標:年間20万個) ● 古切手回収運動の全社展開(目標:年間1,200 g) ● 社会貢献活動の周知、参加促進



特集 1

創業45周年記念 周年行事のあゆみ

◆ 周年記念に対する想い

ニデックは、1971年の創業以来、5年の節目に周年記念行事をおこなっています。

周年記念行事では、創業時から、地元蒲郡の地で長年育てていただいた感謝の気持ちを込めて、蒲郡市への寄付活動をおこなっています。また、「企業は人なり」の信念をもとに、当社で働く全社員、その家族を対象とした社員旅行の実施や式典開催など、社員参加型の行事も併せておこなっています。

◆ 2016年8月10日に創業45周年記念式典を開催

当社は2016年8月8日(月)に創業45周年を迎え、8月10日(水)に、愛知県蒲郡市にある本社拾石工場内のホールで記念式典を開催しました。

式典では、社長の小澤から、創業から45年間の振り返りや50周年へ向けてのプランについて発表がありました。また、海外子会社の社員からのビデオメッセージ放映や蒲郡市の和太鼓チーム“海燕(うみつばめ)”様の演奏を鑑賞しました。



大迫力の海燕様の演奏
鑑賞中の様子

◆ 45周年記念委員会発足

周年記念行事を計画するにあたり、社内から10人程の社員が任命されます。今回も45周年記念行事企画委員会が発足され、全社員を楽しませる企画やどのようにしたら周年行事が盛り上がるかなど、委員会内で活発な議論が繰り返り広げられました。

◆ 45周年記念ハワイ旅行

創業10周年の1981年から当社は、周年記念旅行として、全社員とその家族が参加するハワイ旅行が企画されています。これは、社員のモチベーションアップ、社内コミュニケーションの活性化を目的としています。1981年当時は、まだまだ海外旅行は珍しく、蒲郡市内外でも話題となりました。

今回の45周年ハワイ旅行は、6月上旬から1カ月間、8班に分かれて出発します。



35周年記念ハワイ旅行の
際の写真

創業15周年、20周年記念

蒲郡市民病院様へ眼科手術用顕微鏡を寄贈しました。

創業25周年記念

蒲郡市民病院様へ眼科医療用機器を寄贈しました。

寄贈品：

- エキシマレーザ角膜手術装置 (EC-5000) 1式
- 超音波白内障手術装置 (CV-12000) 1台
- 角膜形状解析装置 (EyeSys2000) 1台



EC-5000



CV-12000

創業30周年記念

蒲郡市へ消防活動業務共用
広報車を寄贈しました。



広報車贈呈の様子

創業35周年記念

蒲郡市へ自動視力計を寄贈しました。また、日本失明
予防協会、アイバンク協会へ寄付しました。

寄贈品：

- 自動視力計ニデックビジョン (NV-300) 20台
- 蒲郡市内の小学校13校と中学校7校に設置

寄付：

- 日本失明予防協会、アイバンク協会への寄付
- 創業35周年記念キャンペーンの売上の一部と、
当社の社員有志による協賛金を、財団法人日本
失明予防協会と財団法人日本アイバンク協会へ
寄付



NV-300



寄付金目録贈呈の様子

創業40周年記念

蒲郡市保健センター様へ自動視力計を、蒲郡市民病院
様へ輸血スタンドを寄贈しました。また、下記団体へ
協賛しました。

寄贈品：

- 自動視力計 (NV-350) 1台
- 輸血スタンド 50台

協賛：

- 日本障害者セーリング協会
→蒲郡市に練習拠点を置く、世界障害者セーリング
選手権の日本チームの活動へ協賛
- 小学生向け「水辺の安全教室」
→ラグーナ蒲郡「ラグナシア」のプールを会場とし、
蒲郡市内の小学6年生を対象に開催された、着衣
水泳や救急救命の講習会へ協賛
(主催：ラグーナ蒲郡、共催：蒲郡商工会議所)



NV-350



水辺の安全教室の様子

創業45周年記念

蒲郡市へ青色回転灯付き防犯パトロール車を寄贈
しました。また、7月におこなわれた蒲郡納涼花火
大会において、大スターマインに協賛しました。



蒲郡市 稲葉市長へ
寄贈車を贈呈



当社が協賛した
大スターマイン

特集
2

世界の健全な環境整備のために ネパール学校再建支援

世界の人のためにできること

ニデックは「Eye & Health Care」を核とし、世界約80カ国に製品を送り出しています。医療に従事する企業として、世界の人が健全に生活できる環境整備に貢献したいと考え、これまでに世界各地の医療や教育の現場を支援する活動をおこなってきました。

近年では、特定非営利活動法人を通じて、使用済みノートパソコンや眼内レンズ・灌流チューブの寄贈、眼科検診の補助といった取り組みを実施しました。

継続的に実施している活動もあり、2009年からはペットボトルのキャップを回収し、発展途上国の人々にワクチンを贈る「エコキャップ運動」にも取り組んでいます。

近年の主な国際貢献活動



●2011年

使用済みノートパソコンを特定非営利活動法人オアシスに寄贈し、同法人からカンボジアの学校に提供されました。15台のパソコンを提供した小学校教員養成学校から感謝状を頂きました。



●2014年

金沢医科大学眼科学教室およびアフリカのタンザニアMuhimbili大学眼科学教室との共同研究でおこなわれた調査・検査に同行し、検診実務の支援作業、装置のメンテナンスをおこないました。



第23回眼科医療支援活動
提供：日本ミャンマー交流協会

●2013年～2016年

白内障手術後に挿入される眼内レンズと、白内障・硝子体手術装置で使用する灌流チューブを特定非営利活動法人日本ミャンマー交流協会(AJMCC)に寄贈しました。



●継続実施

2009年よりペットボトルのキャップを集めて、発展途上国にワクチンを贈る「エコキャップ運動」に取り組んでいます。2016年度は、全社で193,242個のキャップが集まりました。これはワクチン約240名分の量になります。

◆ NIDEK KALIKA HIGH SCHOOL

国際貢献の一環として、2001年にはネパールの学校建設を支援しました。ネパールの首都カトマンズから東へ150キロに位置するスンドラワティに建てられたこの学校は、通称「NIDEK KALIKA HIGH SCHOOL」と呼ばれ、多くの生徒が学ぶ地域の教育現場として役割を担ってきました。



2001年4月に建設された
NIDEK KALIKA HIGH
SCHOOL

しかし2015年の大地震により、地域は大きな被害を受け、NIDEK KALIKA HIGH SCHOOLも骨組みだけが残る状態で、ほぼ崩壊してしまいました。周辺地区の住民の多くが仮設住宅に暮らし、約800名の生徒たちが、崩壊した学校の敷地横に建てられた屋根のみの仮設校舎で勉強しています。

再建の目途はたっており、当社に援助要請があったことから、新しい校舎を再建することになりました。



(左): 骨組みのみを残し、崩壊した学校の校舎
(右): 崩壊した学校横に建てられた仮設の校舎
小学生500名、中学生150名、高校生150名の合計約800名の生徒が、屋根のみの仮設校舎で勉強を続けています。

◆ 学校再建プロジェクト

2016年8月、当社担当者が現地を訪問し、再建計画の契約を正式に締結しました。2016年10月より再建工事がスタートし、2017年9月末には新しい校舎が完成する予定です。

現地訪問を歓迎する地元の人々



再建工事の様子(2017年3月)



新校舎のイメージ

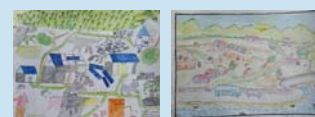


ネパール地震の影響

2015年4月25日にネパールを襲ったM7.8の大地震の影響は、2016年8月の訪問当時も続いていました。M3程度の余震が頻繁に発生し、ネパール全体では約40%、学校周辺の地区では約90%の人々が仮設住宅に暮らしているそうです。



被害の残る首都カトマンズ
の一角(2016年8月現在)



地震発生時の様子
を描いた児童の絵

特集 3

高品質な眼内レンズを蒲郡から世界へ 眼内レンズの品質向上に 向けた取り組み

◆ ニデックの眼内レンズ

眼内レンズは、白内障手術時に、白く濁った水晶体を取り除いた後に眼の中に挿入する人工のレンズのことです。高齢化が進む中、眼内レンズが1980年に薬事承認されて以降、国内では年間120万眼以上の手術がおこなわれるなど、眼内レンズの需要は、毎年おおよそ2%ずつ増加しています。(*1)

(*1)日本眼科学会「白内障手術をめぐる現在の環境」資料参考

白内障とは

白内障は、水晶体(*2)が白く濁る病気です。水晶体が濁ってくると光が網膜に到達しにくくなり、視力が低下し、ものが見えなくなる恐れがあります。原因は様々ですが、加齢に伴う「老人性白内障」が最も多く、60歳代で70%、70歳代で90%、80歳以上になるとほぼ100%の人に白内障による視力低下がみられます。

(*2)水晶体：眼の中でレンズの役割を担う器官のこと。外から入ってくる光を屈折させ、網膜上に像を結ばせる機能をもつ。

眼内レンズラインアップ



着色非球面ワンピースアクリルレンズ
Aktis SP(NS-60YS)

販売名：ネックス アクリ エイエイ ワンピース

グリスニング(*3)、ホワイトニング(*4)を起こしにくい素材を採用した眼内レンズ



アクリル・プリセットIOLシステム SZ-1

販売名：ネックスロードシステムSP

白内障手術で用いられる挿入具一体型眼内レンズ。眼内レンズをあらかじめセットすることで、清潔性と手術操作の軽減を実現

(*3)グリスニング：きらきら輝いて見える小粒子が多数みられる現象のこと。

(*4)ホワイトニング：レンズ表面が様々な方向に光を反射し、それが増加して霧状に白色化して見える現象のこと。

当社は、白内障/硝子体手術装置も取り扱っています。



白内障／硝子体手術装置
Fortas® APタイプ

販売名：硝子体手術装置 CV-30000

白内障手術・硝子体手術をトータルサポート。ハイスピード硝子体カッター機能の搭載により、網膜付近の微細な処理が可能



←その他の製品は、当社ウェブサイトをご覧ください

◆ 開発から出荷まで集約された拾石工場第7棟

2015年11月、眼内レンズの生産性向上を目的とし、拾石工場第7棟を増設しました。この増設により、開発から出荷までの全工程が1つの工場に集約されました。



拾石工場第7棟の外観

製造現場では、作業手順書に従った製造を徹底しています。教育を受けたもののみ作業従事者として製造現場で作業することかでき、これにより、品質はもちろんのこと、納期やコストを十分に満たす製品を製造することが可能です。

この作業手順書は定期的に見直されています。作業方法の改善により、不良率を減らすことが目的です。



拾石工場第7棟の屋根には、太陽光パネルが設置されています。

◆ 国際基準に準拠した高品質な眼内レンズ

当社では、重合・旋削・研磨・検査梱包・滅菌の工程で製造しています。近年、日本をはじめ、多くの国で寿命が延びており、60歳代で手術をして80歳代まで生きた場合、20年以上目の中に眼内レンズを入れた状態が続きます。そのため、眼内レンズの品質が重要であり、当社の製造部全体で、良品率を上げる取り組みに注力しています。

その中でも2016年度は、眼内レンズのキズ不良率低減を目標に活動に取り組みました。

眼内レンズの製造工程は、およそ20工程あるため、機械要因・ヒト要因・材料要因といったものがキズの発生原因として挙げられます。

それらに対し、「品質工学(*5)」の手法を用いてさまざまな角度から分析し、キズ不良率を大幅に低減させた結果、良品率の向上に繋がりました。

(*5) 品質工学: 田口玄一博士が創出した考え方で、研究開発・製品設計・工程設計・工程管理を効率的に実現する手法のこと。また、高品質と高生産性を同時に実現するための具体的な技術的方法論として体系化された機能品質の評価方法と改善方法に関する工学のこと。欧米では、博士の名を冠してタグチメソッドとも呼ばれている。



現場で調査をおこなうプロジェクトメンバー

眼内レンズ 製造責任者 曾田 靖

安定した品質を 目指して



WHOの2010年報告によると、全世界の失明原因第1位は白内障で、全体の50%以上を占めています。白内障治療手術では濁った水晶体を取り除き、代わりに人工水晶体(IOL)を挿入しますが、私達の工場で生産しているのがこのIOLです。生産にあたっては国際規格を厳守することはもちろんのこと、挿入されたIOLをいつまでも安全にご使用いただくために「規格＝出荷基準」とはせず、さらに厳しい社内基準を設けて生産しています。品質工学をはじめ、統計学を駆使して品質の維持・向上に努めていますが、品質のハードルが高くなることは、世界の医療関係者や患者様への私達が果たすべき約束であり、医療用具を製造する私達の誇りでもあります。

特集 4

ワーク・ライフ・バランスの推進 女性活躍に向けた取り組み

◆ 女性活躍推進法に基づく行動計画

ニデックでは、女性活躍推進法に基づいた状況把握と課題分析の結果を踏まえ、以下の行動計画を策定しました。

行動計画

目標①

正社員の男性の平均勤続年数に対する女性の平均勤続年数割合を60%以上とする。

取り組み内容：

- ・配偶者同行休業制度の検討
- ・介護短時間勤務の内容の再検討

目標②

育児休業者とその上司を対象とした復職のフォローアップ研修を新設し、100%実施する。

取り組み内容：

- ・育休復職者とその上司を対象とした制度利用者の長期的なキャリアプランの作成支援をする。
- ・時短勤務者が、時間制約を有する中でもモチベーションを維持しながらキャリア形成を継続するように意識付けをする。

◆ 配偶者同行休業制度の導入

女性活躍推進法に基づいて定めた行動計画の一環として、2016年7月に「配偶者同行休業制度」を制定しました。

この制度により、配偶者の国内外の転勤または修学などの理由で社員が配偶者の転居に同行する場合、最大2年の休業が認められるようになりました。

同行休業が2年を超えた場合は、復職希望登録制度(*1)による復職希望登録が可能です。

(*1)復職希望登録制度：

再び当社での活躍を希望する方にウェブサイト上でキャリアを登録していただく制度です。登録された情報をもとに、求人情報をご案内しています。同行休業が2年を超えた社員の他、出産・育児等を理由に退職した社員も利用できます。

・復職希望登録



出産、子育て、配偶者の転勤等の同行を理由に退職し、再び当社で活躍をご希望される方はこちら

復職希望登録はウェブサイト上で常時受け付けています。

▼復職希望登録サイト

<http://www.nideck.co.jp/recruit/resumption/>

● 育児・介護に関する制度

当社は、社員一人ひとりが活躍できるよう、育児や介護を担う社員を支援する制度を設けています。2017年1月には、育児・介護休業法の改正に基づき、育児休業・介護休業の取得要件の緩和や、介護休業の分割取得を可能にするなど、既存の制度を改善しました。

当社独自の取り組みとしては、2015年9月から育児短時間勤務の対象者を「小学3年生までの子を養育する者」に範囲を広げています。また、子の看護休暇についても、2017年1月より、看護対象を小学3年生までの子としています。

他にも、育児に関する取り組みの1つとして、2010年6月から社内託児所「ぴっころ」を運営しています。



託児所「ぴっころ」
入所定員：最大26名
対象：0歳～小学校就学前

● 育児休業復職のフォローアップ研修

当社では、育児休業を取得した社員のうち、ほぼ全員が復職しています(*2)。復職者が育児休業から円滑に職場復帰できるよう、復職者自身とその上司を対象とした「育児休業復職のフォローアップ研修」を2017年2月に新設しました。

この研修は、復職者のモチベーション維持やキャリア形成の継続への意識付けを目的にしています。また、復職者の活躍を推進するため、上司には管理職としての心構えやコミュニケーションの取り方などを学んでもらいます。

(*2) 育児休業後の復職率

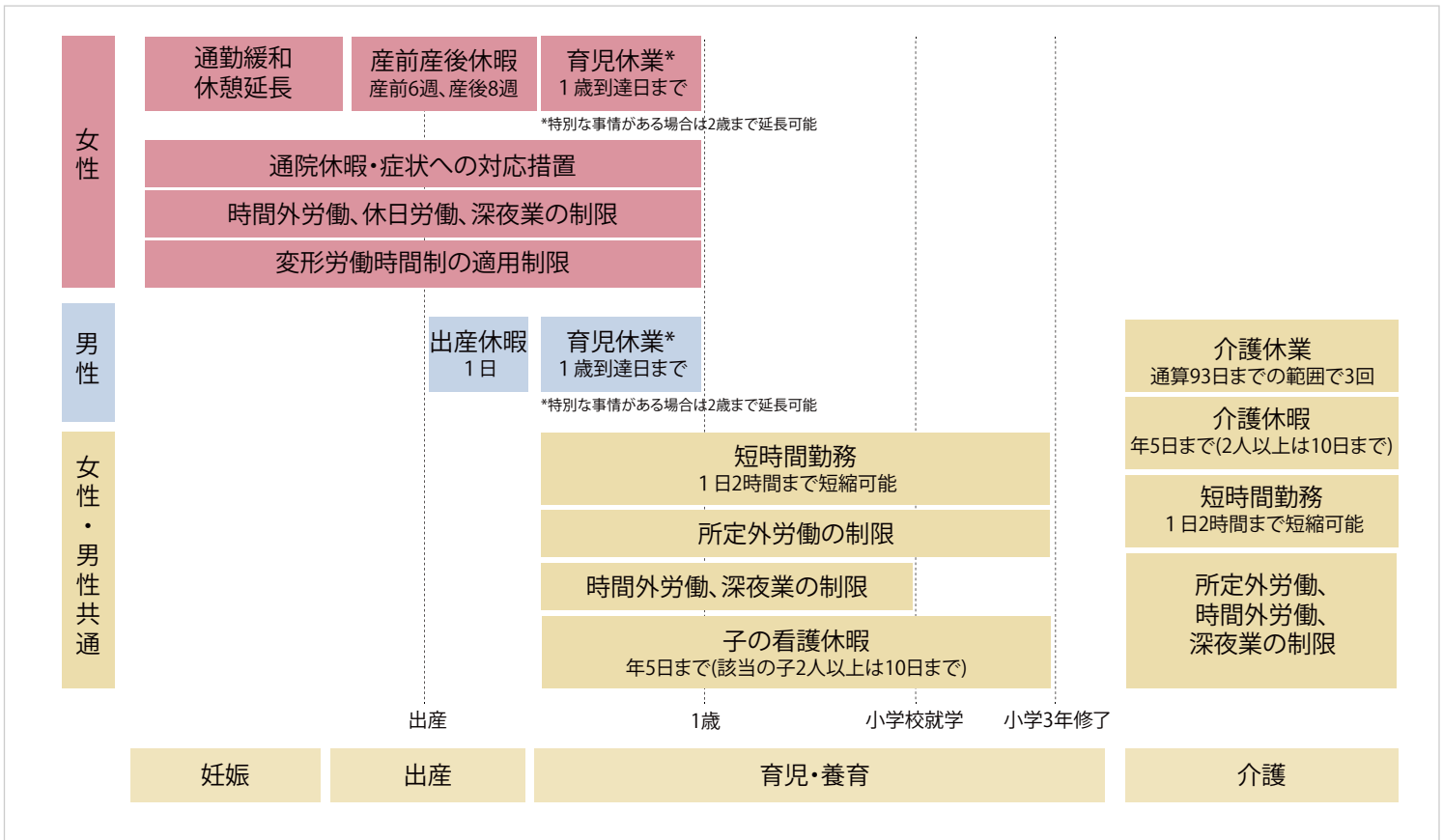
(単位：%)

	2012	2013	2014	2015	2016
復職率	100	100	100	93	100



研修で使用する教材例
対象者は復職後1ヶ月以内にeラーニングで研修を受講します。

妊娠・出産・育児・介護に関する制度



情報セキュリティ



▲ 社内で利用するコンピュータシステムについても、運用規程を設け、管理を徹底しています。

◆ 情報セキュリティの管理方針

ニデックは、業務上取り扱うお客様や取引先の情報、および経営資産である情報資産の安全性を維持するには、適切で十分な情報セキュリティ対策を実施し、高度な情報セキュリティ水準を達成することが必要不可欠だと考えています。

情報セキュリティの包括的な対策として、情報セキュリティマネジメントシステムを構築し、当社が保有する情報資産をあらゆる脅威から保護する取り組みをおこなっています。

これまで情報資産を扱う社員を対象とした基本方針を定めていましたが、2016年度は、これに加え、全社員が対象となる情報セキュリティ管理規程を策定しました。

情報資産の取り扱いについて

当社は、権限を与えられた者のみが情報資産を取り扱える仕組みを構築しています。

個人情報の取り扱いについて

個人情報保護方針を定め、社内管理体制を整備し、適切な取り扱いと安全管理に万全を尽くしています。

◆ 情報セキュリティ体制

当社は、情報セキュリティの維持・強化を担う情報セキュリティ委員会を設置しています。漏洩などに関わる危機管理など、セキュリティ全般に関わる全社的な方針を策定し、それらに関連する重要事項を決定しています。

情報セキュリティ委員会の傘下に、特定個人情報専門部会と情報セキュリティ推進委員会を設置しています。特定個人情報専門部会は、マイナンバーを適正に扱うための社内規程づくりや、マイナンバーに対応したシステムの開発や改修、特定個人情報の安全管理措置の検討、社内研修・教育をおこなっています。

情報セキュリティ推進委員会は、情報セキュリティに関する文書の作成、改訂、廃棄の審議など、実質的な情報セキュリティの維持・管理を遂行しています。

情報セキュリティ組織図



情報セキュリティに関する取り組み

情報セキュリティ4カ条

当社は、情報セキュリティの4カ条を以下のとおり制定し、全社員への周知・徹底をおこなっています。

- ① Windows/パスワード設定
定期的に、各自のWindowsパスワードを変更する。
- ② 事故報告の徹底
機密文書、情報端末機器を紛失した場合、速やかに会社に届け出る。
- ③ クリアデスクの推奨
帰宅時は各自の機密文書、情報端末機器を施錠できる場所に保管する。
- ④ 社外ネットワークへの接続規制
『個人所有の情報端末機器及び関連機器』を社外ネットワークに接続しない。

パソコン起動時のパスワード変更

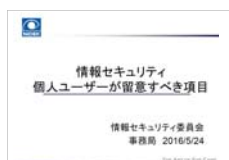
情報セキュリティ強化の一環として、社内ですべてのパソコンの起動時パスワードを定期的に変更しています。

パスワードを定期的に変更することで、パスワードの漏洩、なりすましなどの被害、データの流出を防いでいます。

情報セキュリティ教育

情報セキュリティに対する社員の意識向上を目的に、社員教育をおこなっています。

2016年度は、経営層・職制を中心にeラーニング、ビデオ研修を実施し、その内容を各職場に展開しました。情報セキュリティ教育では、パスワードの変更、クリアデスクの推奨といった基本的な対策から、心当たりのないメールの添付ファイルを開かない、といった心構えなどを呼びかけました。



研修で使用した教材の例。

外部機関による現状分析

2016年4月に外部機関による情報セキュリティの現状分析を実施し、社内の運用体制を確認しました。この現状分析の結果をもとに、情報セキュリティのより一層の強化、意識の向上を目的とした「情報セキュリティ対策ハンドブック」を新たに作成しました。

情報セキュリティマネジメントシステム 規格認証登録

当社は、情報資産を取り扱う部門の情報セキュリティマネジメントシステムについて、外部機関によるサーベイランス審査を受けています。

2016年度も適用規格ISO/IEC 27001:2013およびJIS Q 27001:2014の要求事項を満たしているとして、認証登録されました。

今後も社内の情報セキュリティ対策を強化し、認証登録を継続できるよう活動していきます。



ISO/IEC 27001:2013 / JIS Q 27001:2014

登録機関(2016年現在)
British Standards Institution
登録認証番号(2016年現在)
IS 580917



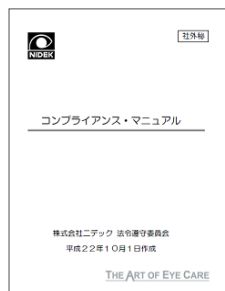
▲ 新入社員研修の様子。同研修には、コンプライアンス・マニュアルを用いたコンプライアンス研修も組み込まれています。

◆ コンプライアンスの指針

ニデックは、社会共通のルールや規範に従って行動することは、事業を継続するうえで必要不可欠であり、率先して取り組むべき課題と考えています。

法律や規則を遵守し、企業倫理を守って行動することはもちろん、法律の趣旨や社会の規範に照らして、企業に求められる道義的・社会的な責任を果たしてまいります。

お客様をはじめとする、すべてのステークホルダーの皆さまの信頼を裏切らないよう、「企業行動憲章」の指針に従い、コンプライアンスを実践していくことを全社員に求めています。



コンプライアンス・マニュアル

企業活動に関するコンプライアンスについてまとめたマニュアルを作成し、これをもとに各種研修を実施しています。

◆ 法令遵守体制

当社は、法令遵守委員会を設置し、法令遵守の状況把握、法令違反の未然防止をおこなうとともに、法令違反があった場合に適切な対応を取れるよう体制を整えています。

法令遵守委員会の役割

1. 社内の法令遵守体制の構築・維持・管理
2. 法令遵守マニュアルの策定およびメンテナンス
3. 法令遵守についての教育や啓蒙
4. 法令遵守活動の実施状況のモニタリング
5. 問題発生時の調査や対応
6. 法令に関する社員からの相談窓口

◆ 法令遵守に関する取り組み

ニデック社員の行動指針

社員のコンプライアンス意識を高めるため、「ニデック社員の行動指針」のポスターを作成し、各職場に掲示しています。

このポスターには、企業行動憲章をはじめ、社員が自らの行動について自問自答するためのコンプライアンス・テスト(チェックリスト)や、公益通報相談窓口の情報が掲載されています。



ニデック社員の行動指針

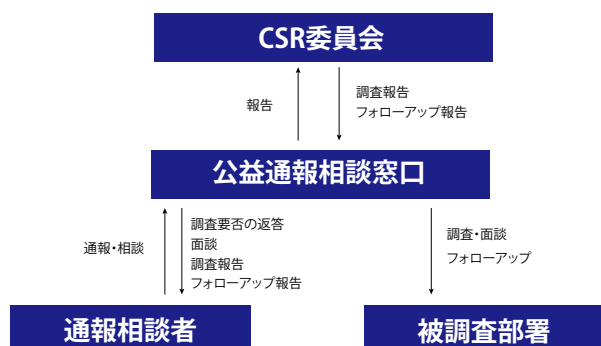
社員のコンプライアンス意識向上のために作成されたポスター。当社すべての職場に掲示しています。

公益通報相談

当社は、組織的または個人的な法令違反行為などについて、相談または通報できる「公益通報相談窓口」を設けています。この制度は、不正行為などの早期発見と是正を図り、コンプライアンスを強化することを目的としています。

また、通報者が通報または相談したことによって、不当な不利益を受けることがないよう、社内規程でその保護を定めています。

公益通報対応フロー



コンプライアンス教育

当社は、社員へのコンプライアンス教育に力を入れており、年度の初めに年間計画を立て、階層別・職種別の研修を定期的の実施しています。

また、毎年、全社共通のテーマを設け、各職場で研修を実施し、意識向上・注意喚起に努めています。2016年度は、個人情報の取り扱いに対する意識向上を目的に、個人情報保護教育を重点的に実施しました。



集合研修の様子。コンプライアンス教育には集合研修の他に、eラーニングも取り入れています。



研修で使用了教材の例



▲ 拾石工場第7棟に設置した太陽光パネル。この他にも浜町工場、大沢工場にも太陽光発電システムを導入しています。

◆ 環境方針

ニデックは、企業の社会的責任、地球および地域環境保全の重要性を認識し、循環型社会形成に寄与する改善活動を継続的にこなっています。

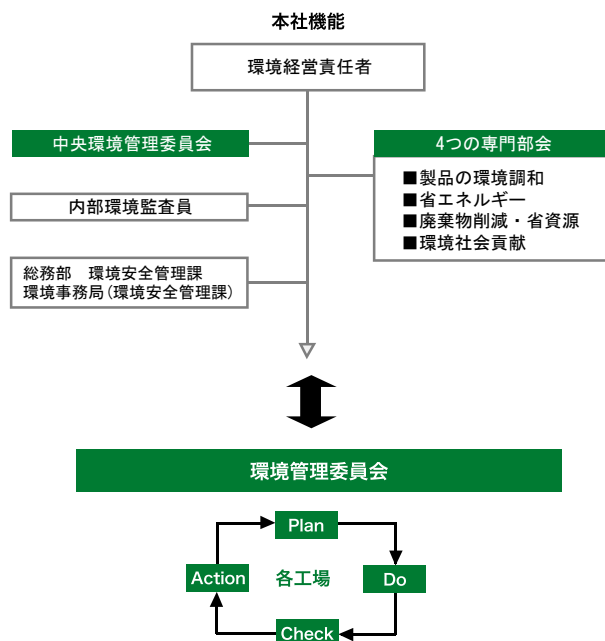
ニデックの環境方針

1. 事業活動に伴う環境側面が環境に与える影響を的確に捉え、環境目的及び目標を定めて全従業員で取り組み、汚染の予防、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和と対応、生物多様性及び生態系の保護を推進する。なお、環境目的及び目標は定期的に見直し、必要に応じて改訂することにより、環境パフォーマンスの継続的な改善を図る。また、環境に関する法律、規制、条例、自主規制等を順守し、利害関係者の意見を尊重する。
2. 事業活動、製品の製造及びサービスが環境に与える影響を考慮し、特に次に示す事項について重点的な環境保全活動を推進する。
 - (1) 製品の環境調和
主力製品から、有害物質の排除を促進するとともに、グリーン調達を推進する。また、原材料の調達・生成から製品の廃棄処理に至るまでの環境影響について考慮し、環境配慮型の製品を提供する。
 - (2) 省エネルギー
エネルギー消費の少ない製品設計及び生産プロセスの導入等により、省エネルギーを推進する。
 - (3) 廃棄物削減・省資源
資源の有効利用を図るとともに、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進することにより廃棄物の総排出量の削減を図る。
また、ゼロ・エミッションを推進する。
 - (4) 環境社会貢献
CSRの観点から、環境情報の公開と、地域・社会とのコミュニケーションを通じて、環境保全に貢献する。
 - (5) 化学物質の適正管理
大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等の防止に努めるとともに、人の健康及び生物との共存の観点から化学物質の適正な管理を推進する。
 - (6) フロン類の排出抑制
業務用の冷蔵・冷凍・空調機等を適正に管理(フロン類の漏れ防止、代替フロン化・ノンフロン化の推進など)することにより、オゾン層保護及び地球温暖化による気候変動を緩和する。
 - (7) 事業継続計画(BCP: Business Continuity Planning)
BCPにより、想定される気候変動による災害などの緊急事態が発生した時の損害を最小限に抑え、事業の継続や復旧を図るための対応をする。
3. 環境教育、社内広報活動等により全従業員に環境方針の理解及び持続可能な地球環境保全に対する意識の向上を図る。また、関連会社に対し理解と協力を求める。

◆ 環境管理体制

当社は、環境経営責任者の下に、中央環境管理委員会と4つの専門部会を設置しています。また、各工場に環境管理委員会を置き、工場ごとに改善点を見出し、改善に向けたPDCAサイクルをまわしています。工場ごとの活動を中央環境管理委員会に報告し共有することで、全社をあげた改善を続けています。

環境管理推進組織図



◆ 製品の環境調和

当社は、環境関連法規制への対応はもちろんのこと、環境への負荷を低減した製品の開発・製造を推進しています。2016年度には2つの環境調和型製品を発売いたしました。いずれも環境に配慮した設計により、性能や機能を向上させながらも、製品の分解性の向上および材料の再資源化を容易にし、環境への負荷低減を実現した製品です。

環境調和型製品の創出においては、製品のライフサイクル全体から環境負荷を把握し、さまざまな角度からの改善を進めています。

環境負荷低減は「製品アセスメント実施規程」をもとに、企画・設計段階から負荷低減を考えた活動が重要と位置づけ、開発部門や製造部門並びにサプライチェーンと連携し、積極的な改善に取り組んでいます。具体的には、再資源化が容易な製品材料の選択、製品の分解を容易にするための部品点数やネジの数の減少、包装資材の省資源化、製品廃棄時における廃棄手順書の提供などです。また、欧州規制(RoHS、WEEE)や中国RoHSへも適合しています。

今後も環境調和型製品の開発を推進し続けることにより、地球環境の負荷低減に努めていきます。

細隙灯顕微鏡スリットランプ SL-2000

スリットランプは、細隙灯顕微鏡とも呼ばれ、医師が患者の眼に光を当て、拡大して観察するための機器です。スリットランプ検査では、両眼で見ることができ、眼を立体的に観察することが可能です。当機は、双眼部に立体視しやすいコンバージェンスタイプを採用しています。



従来製品と比較し、製品重量を約27%軽量化して、減量化を進めました。また、製品の小型化を進め、容量を約58%削減しました。照明光源は、従来のハロゲンランプからLEDに変更し、ランプの長寿命化(ハロゲン寿命の100倍以上)と消費電力の低減を実現しました。

イエローレーザー光凝固装置 YLC-500 Vixi™

本装置は波長577nmの光励起の半導体レーザー(イエローレーザー)を治療光源とする眼科用のレーザー光凝固装置です。レーザー光凝固装置は、眼底疾患を熱凝固作用を利用して治療する際に、網膜にレーザーを照射するために使用される医療機器です。



従来製品と比較し、製品重量を約10%軽量化して、減量化を進めました。

◆ CO₂排出量

当社はCO₂の排出を減少することにより、環境保全や生態系の保護に配慮した事業活動に取り組んでいます。

各資源/エネルギーの使用量をCO₂に換算した場合、電力によるCO₂排出が大半を占めているため、全社的に日頃からの電力節約に力を入れています。



電力

13,972.91 t
(全体の98%)



A重油

21.14 t



ガソリン

235.46 t



軽油

26.00 t

総計 14,255.51 t
前年比 97.5%

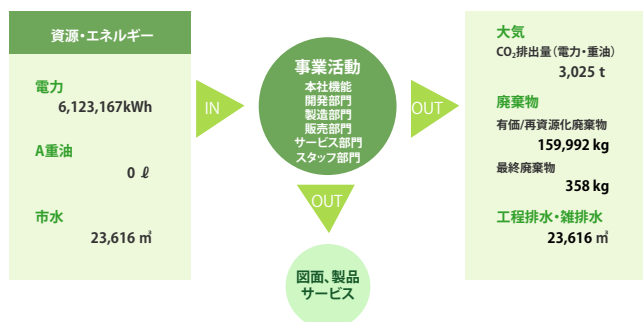
* 2013年度から、社用車のガソリン・軽油使用量も報告に含まれます
(5工場+蒲郡支店)

工場別環境負荷概要 ※小数点以下は切り捨て

当社は、本社地区に5つの工場があります。以下は各工場の環境負荷の概要です。

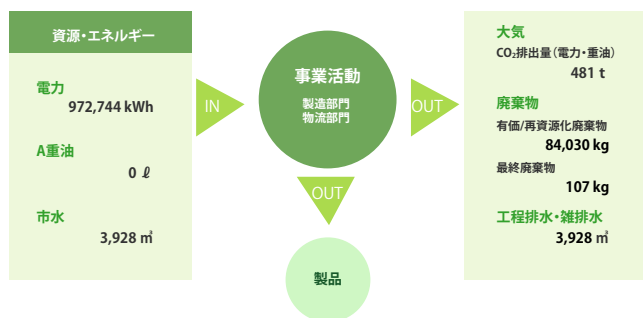
本社(拾石工場)および第7棟

本社機能を中心に、開発部門、一部の製造部門、販売部門、サービス部門、スタッフ部門が業務を遂行しています。



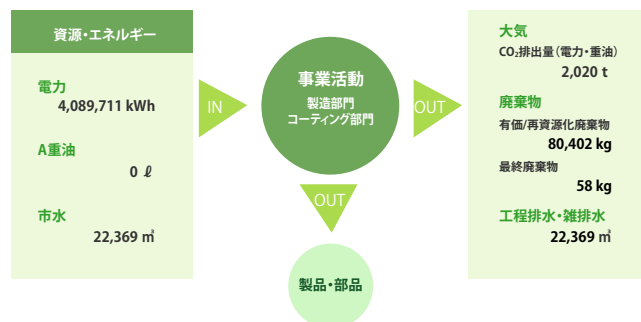
浜町工場

製品の部品購入、組立、部品や製品の検査、および物流の専門工場です。太陽光発電設備を備えています。



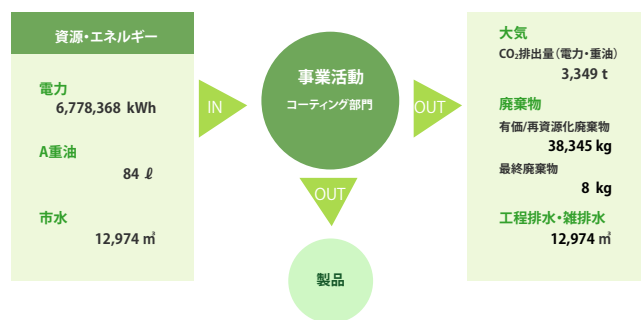
鶴ヶ浜工場

光学部品など製品内で使用する部品の製造や、眼鏡レンズへのコーティングをおこなう工場です。



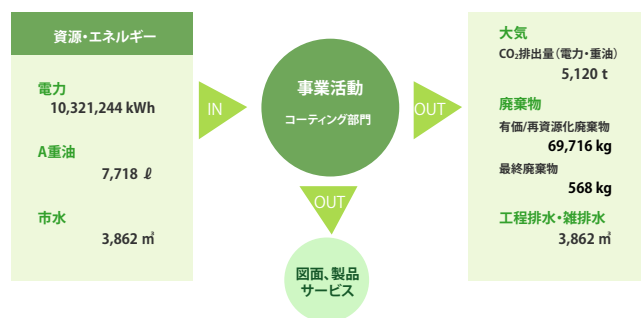
東浜工場

光学フィルターなどのコーティング工場として操業しています。



大沢工場

光学部品やディスプレイのフィルムなど、反射防止膜をはじめとするさまざまなコーティングをおこなう工場です。太陽光発電設備を備えています。



電気調整後排出係数 0.000509 (t-CO₂/kWh)
A重油排出量算定係数 2.71 (t-CO₂/kℓ)

◆ 廃棄物量/PRTR法対象化学物質使用量

廃棄物のゼロエミッション達成に向け、最終廃棄物の内容分析をし、再資源化率の向上を目指して全社的に活動を展開しています。2016年度も、99%以上の再資源化を通年で達成できました。

廃棄物量／再資源化率の月別推移

単位：kg

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度
有価/再資源	30,653	31,294	34,815	39,961	38,561	36,476
最終廃棄	50	43	120	64	81	56
合計	30,703	31,336	34,935	40,025	38,642	36,532
再資源化率	99.8%	99.9%	99.7%	99.8%	99.8%	99.8%

	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度
有価/再資源	28,380	40,741	40,057	27,348	40,759	43,440
最終廃棄	193	90	86	69	73	175
合計	28,573	40,831	40,143	27,417	40,832	43,614
再資源化率	99.3%	99.8%	99.8%	99.7%	99.8%	99.6%

特別管理産業廃棄物量

2016年度は、対前年比で71.1%と排出量が減少しました。鶴ヶ浜工場、東浜工場からの排出量減少が主な要因です。今後も最低限の廃棄物量にとどめられるよう排出量のチェックと削減努力を強化します。

単位：kg

拾石工場	浜町工場	鶴ヶ浜工場	東浜工場	大沢工場	計	対前年比
57,628.5	3,440.0	11,315.0	2,705.5	3,040.0	78,129.1	71.1%

PRTR法対象化学物質使用量

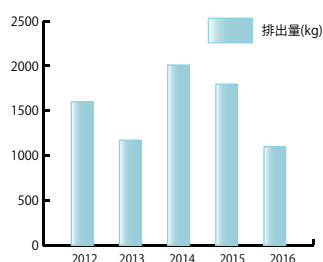
PRTR法(*)に基づく第一種指定化学物質の2016年度の使用量について、経済産業省への届出対象は以下の通りです。

本社拾石工場：メタクリル酸ノルマル-ブチル 1,500 Kg

*特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律

最終廃棄物排出量の推移

年度	排出量 (kg)
2012	1,600
2013	1,171
2014	2,009
2015	1,796
2016	1,099



当社の「ゼロエミッション」：

「工場からの廃棄物総排出量の有価/再資源化率を99%以上」とする。

有価/再資源化率は、「(総排出量－最終廃棄物)÷総排出量」で算出する。

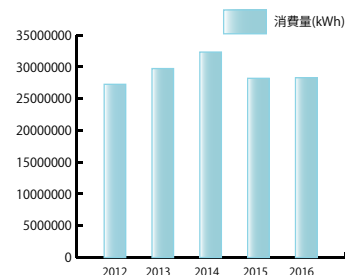
◆ エネルギー消費量

各工場、省エネ活動を継続していますが、2016年度は、生産量増加により電力消費量を削減することができませんでした。

当社は、重油を2工場(大沢/東浜工場)で電力ピーク補填用発電に使用しています。昨年度は、大沢工場の生産増加により、夏場の電力ピークカットとして使用したことで増加が見られました。

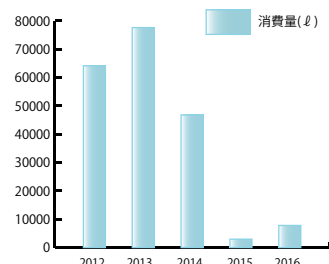
電力消費量の推移

年度	消費量(kWh)
2012	27,249,207
2013	29,723,670
2014	32,320,445
2015	28,189,983
2016	28,285,234



重油消費量の推移

年度	消費量(ℓ)
2012	64,136
2013	77,599
2014	46,777
2015	2,959
2016	7,802

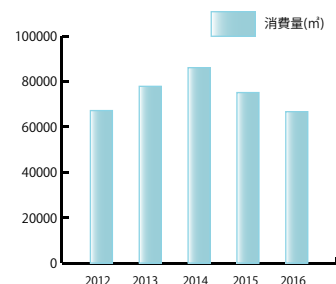


◆ 市水消費量

コーティング事業の工場において、洗浄工程の効率性向上による節水成果が着実に表れており、市水消費量が減少しました。

市水消費量の推移

年度	消費量(m³)
2012	67,232
2013	77,927
2014	86,150
2015	75,170
2016	66,749





▲拾石工場第7棟の外観。この工場では、白内障の治療に使う眼内レンズの開発から出荷までの全工程が集約され、製品の品質向上に努めています。

◆ 品質方針

ニデックは、「見えないものを見えるように」、「活き活き健康社会の実現」を目指しています。人々が健康で快適な生活を送るために、新しい価値の創出に努めるとともに、安全で高品質な製品およびサービスを提供します。

品質方針に基づき、全社で品質の維持向上に取り組んでいます。定期的な内部監査を実施しているほか、社員への「品質教育」にも力を入れています。

◆ 品質保証体制

品質保証国際規格「ISO13485」に基づき、品質マネジメントシステムを整備し、製品開発・生産・販売活動をおこなっています。それぞれの過程で厳しい品質のレビューをおこない、継続的な改善を続けています。また、お客様の声や販売後の市場情報などを収集し、より良い製品づくりに生かしています。

品質保証委員会を定期的に開催し、品質マネジメントシステムの有効性のレビューもおこなっています。

ニデックの品質方針

1. <QOV 向上に貢献>

患者様のQOV(Quality of Vision)向上に貢献するため、要求事項に適合した高品質な製品及びサービスを提供します。

2. <お客様視点で品質を保証>

設計・製造・サービス全てのプロセスにおいて、お客様視点で品質を保証します。

3. <品質マネジメントシステムの継続的改善>

品質マネジメントシステムを構築し、有効性を維持するため継続的改善を実施します。

4. <品質目標を設定>

品質方針を実現するため、年度ごとに品質目標を設定し、目標達成に向け努力します。

5. <品質方針の周知、見直し>

品質方針は、掲示等により全社員に理解されるように周知を行います。また、適切性を維持するため必要に応じて見直します。

◆ 品質向上のための取り組み

取引先説明会

当社は、製品に使われる部品の製造元企業グループ「オプティカ」に対し、毎年初めに取引先説明会を実施しています。当社の現状と今後の計画・方針を明示し、お互いのベクトルを合わせ、生産活動への理解と協力関係を深めることを目的としています。

オプティカ企業の皆さまには、当社製品の品質向上のため、当社の施策に常にご協力いただいています。



2017年1月におこなわれた取引先説明会の様子。
この取引先説明会では、①納期 ②品質 ③貢献度の各部門で、特に活躍された企業に対して、表彰も同時におこないました。

品質マネジメントシステム(QMS)

当社は、Eye & Health Careの担い手として医療機器の設計、製造、販売およびサービスをおこなっている企業です。

医療機器は、各国が定める品質マネジメントシステム(QMS)に関する法要求に従って製造した製品のみが、その国での販売を許可されます。

近年、医療機器に対する品質や安全性に対するニーズの高まりから、各国のQMS審査が厳格化傾向にあります。このため、当社では2015年にQMS再構築のプロジェクトチームを発足し、法令遵守の強化や製品の品質向上を目的とし、品質システムを改良しました。

社員への品質教育にも力を入れており、eラーニングなどを活用した研修を実施しています。



社員用に作成されたQMSの教科書。
QMSの概念・本質を理解し、個々の日常業務に対して、常にQMSとの関連を意識して実行する風土をつくるのが目的です。

QMSの浸透・定着チームの発足

QMSに対する社内理解の促進を目的に、2016年9月に「QMS 浸透& 定着チーム」が結成されました。社内報を用いた情報発信、ヘルプデスクの開設、教育訓練などを通じ、QMSが正しく理解され、適切に実施されるよう啓発に努めています。



(左): 社内報における連載コラム「Plaza de QMS」

(右): 「QMS 浸透& 定着チーム」のメンバー

国際規格の認証取得

当社は国際規格「ISO 9001」と医療機器のための国際規格「ISO 13485」の認証を取得しています。



ISO 9001

登録機関(2016年現在)
TÜV Rheinland Cert GmbH
登録認証番号(2016年現在)
01 100 107201



ISO 13485

登録機関(2017年現在)
TÜV SÜD Product Service GmbH
登録認証番号(2017年現在)
Q1N 16 11 23653 179



▲ 2016年におこなわれた防災訓練では、煙体験ハウスが設置され、火災時における煙の怖さを体験しました。

安全管理方針

ニデックは、「企業行動憲章」の指針に従い、全従業員の安全と健康の確保は企業経営の基盤であり社会的責任であると認識し、安全で安心して働ける職場環境を確保するよう活動しています。

安全管理体制

労働安全衛生マネジメントシステムに基づき安全管理体制を構築しています。その中で、安全管理活動の柱となる4つの専門部会（安全衛生、健康、交通安全、防災）を設置し、社員の安全確保に努めています。

ニデックの安全管理方針

1. 安全管理活動に関係する諸法令および社内規程・基準を遵守する。
2. 経営層をはじめ全従業員は、それぞれの職分に応じた責任と行動により労働安全衛生マネジメントシステムが適切に実施運用されるよう努力する。
3. 安全管理活動の重要性を全従業員に周知し、必要な訓練・教育を通して意識の向上を図る。
4. 安全と健康を確保するため、全従業員の協力の下に安全管理活動を実施する。

(1)安全衛生

リスクアセスメント、危険予知、ヒヤリハット活動、化学物質の適正管理等を実施し、労災事故を未然に防止し、快適職場の形成に努める。

(2)健康

心と体の健康増進活動を進めることにより、従業員の健康維持に努める。

(3)交通安全

交通安全意識の高揚を図るとともに、交通安全対策を推進し、交通事故の削減に取り組む。

(4)防災

想定される災害リスクの事前対策を推進し、従業員およびその家族また来訪者の安全確保と被害の軽減を図る。

◆安全・防災の取り組み

BCP(事業継続計画)への取り組み

当社では、大規模災害などの発生に備えてBCP(*1)を策定しています。毎年、机上訓練を通して、BCP活動や社会状況に応じた対応の見直しをしています。

2016年度には、大規模災害などにより、本社機能や事業機能の一部が停止する事態を想定し、緊急時でも社員が連絡を取り合えるようにウェブ上の掲示板を作成しました。

※1:企業が緊急事態(自然災害や、大火災、テロなど)に陥った場合に、そこで被る損害を最小限におさえつつ、中核のビジネスを継続したり、早急に復旧したりするため、日頃おこなう活動や、緊急時の行動をまとめた計画のこと。

防災訓練の実施

毎年11月に、本社がある蒲郡地区で勤務している社員を対象に、防災訓練を実施しています。災害時の各自の行動を認識すること、被害拡大を防ぐことが目的です。新入社員・中途社員を対象にした消火器訓練もあわせて実施しています。



拾石工場の防災訓練時には、蒲郡市消防本部の方にお越しいただき、防災意識の向上に努めました。

労働災害

▼労働災害発生件数の推移

(単位: 件)

	2012	2013	2014	2015	2016
休業災害	1	1	3	5	1
不休災害	4	8	9	5	2
通勤災害				7	12

※2015年度より業務災害と通勤災害を分けてカウントしています。

当社は、リスクアセスメントの実施や労働災害事例・ヒヤリハット情報をデータベース上で全社員へ展開することで、類似の災害発生の防止に努めています。



毎年7月におこなわれる安全集会では、昨年度発生した労働災害をもとに再現VTRとして放映したり、外部講師を招いて講演会を実施したりするなど、全社員に注意喚起をしています。

定期健康診断の実施

社員の健康意識向上を目的とし、年に1回の健康診断を実施しています。健康診断の結果に基づき、要二次検査者へのフォローも欠かさずおこなっています。

また、有害物質を取り扱う作業者を対象とした、特殊健康診断も実施しています。

職場環境の保持・改善のための活動

快適な職場環境の保持・改善を目指し、照度測定、作業環境測定、防鼠防虫調査などをおこなっています。

健康増進のための活動

9月から11月からの3カ月間、社員の健康増進のため、禁煙・ダイエット・ウォーキング・スポーツ などをおこない、生活習慣の改善を図る「健康チャレンジ」や、冬の運動不足解消のため、業務時間外に体を動かす「冬を乗り切るための体力づくり」など、社員が楽しみながら健康づくりができるようなイベントを実施しています。



健康チャレンジポスター



拾石工場では、1月末にリングテニス大会と卓球大会が開催されました。

メンタルヘルスケアの取り組み

メンタルヘルス対応策として、社員とその家族を対象とした産業カウンセラーによる社外相談窓口を設けています。また、労働安全衛生法の改正に伴い「ストレスチェック」を導入し、社員のストレスへの気付きを強化するとともに、心身ともに健康で働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。



▲ 社員一人ひとりが「気概・違い・世界」の基本姿勢を持ち、業務に取り組んでいます。

◆ 人事制度・人材育成

ニデックは、従業員の能力開発支援や公正な処遇はもちろんのこと、ワーク・ライフ・バランスなどにも配慮し、安心して働ける環境を整備しています。

人事制度

当社が目指す「組織のあるべき姿」「期待される人材像」の実現を通じて、会社としてさらに成長するための人事制度のコンセプトを以下のとおりに設定しています。

▼ 組織のあるべき姿

1. 実現したいと思える組織ビジョンが共有され、その実現に向け全力で推進する組織
2. 機能・部門の枠を越え、同じ方向に向け連携する組織
3. 個の力を効果的に結集し、個を足し合わせた以上の力を発揮できる組織
4. 一人ひとりのメンバーが成長する組織

▼ 期待される人材像

基本姿勢(心構え)

気概(KIGAI)

違い(CHIGAI)

世界(SEKAI)

- ・主体性を持ち、最後までやり切り、結果を出せる人材
- ・好奇心を持ち、新たなことにチャレンジする人材
- ・広い視野を持ち、世の中の変化を読み、行動できる人材

人事制度コンセプト

- | | |
|------------------------------------|--------------|
| 1. 一人ひとりのやる気、仕事へのチャレンジ意欲をより高められる制度 | 制度フレーム・給与 |
| 2. 会社、組織における自分への期待が感じられる制度 | 基準書・人事考課 |
| 3. 成長の機会を提供し、個人の成長を促す制度 | 人事考課・自己申告 |
| 4. 成果が適切に評価され、公正に処遇される制度 | 業績評価・人事考課・給与 |

研修制度

新人・若手	・新入社員研修 ・3年目研修
中堅	・昇格者研修 ・中堅社員研修 ・クリティカルシンキング研修
管理職	・マネージャー研修 ・考課者訓練
55歳時	・セカンドキャリア研修

上表は当社で実施している研修の一部です。より効果的な研修とするため、年度ごとに計画を立てて実施しています。



新入社員からマネージャーまで、階層に応じた研修を実施しています。

◆ワーク・ライフ・バランスの推進

労働時間管理

長時間の労働は、健康状態の悪化だけでなく、私生活にも影響します。当社は、社員の健康を守り、充実した私生活を送ってもらうため、ノー残業デーの設定をするなど、社員一人ひとりが健康で働きやすい職場を整えています。

▼従業員一人当たりの月平均所定外労働時間の推移

(単位:時間)

	2012	2013	2014	2015	2016
所定外労働時間	13.69	16.94	22.48	18.05	17.79

有給休暇

入社初年度は10日、以降1年ごとに2日ずつ加算し、最大20日まで付与されます。取得しなかった有給休暇は翌年に繰り越し、年間で最大40日利用できます。

▼有給休暇の取得日数の推移

(単位:日)

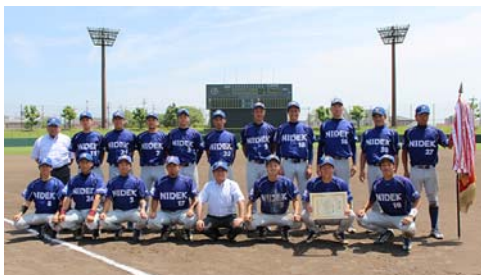
	2012	2013	2014	2015	2016
平均取得日数	11.6	11.4	10.9	10.5	11.7

クラブ活動

当社は、福利厚生の一環としてクラブ活動を推奨しています。業務時間後や休日に、部署を超えた社員同士のコミュニケーションが活発におこなわれています。また、地域スポーツの振興など、地元の皆さまとのふれあいも大切にしています。

昨年度の主な活動例は以下の通りです。

- ・蒲郡市内野球大会の審判(野球部B)
- ・少年剣道の指導(剣道部)



当社軟式野球部は、2016年度の国民体育大会「いわて国体」で4位入賞という好成績を収めることができました。

◆社員懇談会

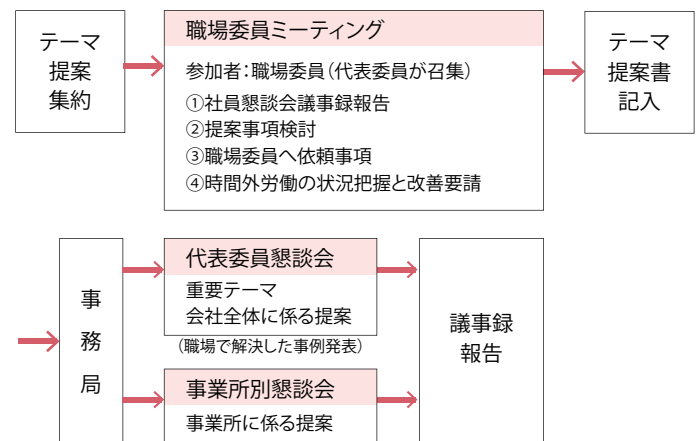
当社は、会社の発展と社員の幸せを築くために、会社と社員が信頼と理解に基づく意思疎通の場として、社員懇談会を設けています。

社員懇談会を通じて、社員は率直に意見を述べ、会社は公正な経営をおこなうよう努めています。

構成

- (1) 会社委員:社長の指名する役員、部長、課長
- (2) 職場委員:各職場を代表する者
- (3) 代表委員:職場委員の互選により選任された者
- (4) 座 長:人事労務担当の取締役
- (5) 事務局:人事部

懇談会用テーマ提案の流れ



◆セカンドキャリア制度

高齢者雇用安定法の改正に伴い、60歳定年以降も雇用が義務付けられました。定年後においても、知識・技能・経験を活かし、力強い戦力として活躍し、会社発展に貢献してもらうこと、また、定年後、再雇用に限らずさまざまな働き方を支援することを目的として、セカンドキャリア制度を設けています。

定年退職の場合、以下の支援制度もあります。

- (1) 求職活動支援休暇制度
- (2) 求職活動支援書の作成・交付
- (3) 独立起業支援



▲ 蒲郡市内の小学校で開催した熱気球教室の際の写真。

社会貢献活動の考え方

ニデックは、本業を通じ、また当社でできうる活動である地域の美化運動などの環境保全活動や、各種の社会貢献活動に取り組んでいます。2016年度に当社が実施した活動の一部をご紹介します。

2016年度の活動

●エコキャップの回収

当社は、ペットボトルのキャップを回収し、発展途上国の子ども向けワクチン代として寄付する「エコキャップ運動」に2009年から継続して参加しています。2016年度は、全社で193,242個のキャップ（ワクチンにして約240名分）が集まりました。

●クリーンキャンペーンへの参加

年に2回の蒲郡市のクリーンキャンペーンに合わせ、各工場の周りを清掃する活動に継続的に参加しています。また、ニデック・フィッシングクラブも、16年間連続で蒲郡市のクリーンキャンペーンの清掃活動にボランティアとして参加しており、定期的な活動として定着しています。



年に2回、蒲郡地区にある5工場周辺の清掃をおこなっています。

●日本点字図書館への寄附

当社の有志による日本点字図書館への寄附活動も、定期的な活動として定着しています。2016年度は、日本点字図書館の運営費用として寄付しました。

●使用済み切手の回収と寄贈

2016年度も使用済み切手を回収し、社会福祉法人視覚障害者支援総合センターへ切手を寄贈しました。

●日本ミャンマー交流協会に輸液チューブを寄贈

国際貢献の一貫として、特定非営利活動法人日本ミャンマー交流協会(AJMMC)に白内障・硝子体手術装置で使用する輸液チューブを寄贈しました。

●蒲郡市内の中学校で熱気球教室を実施

当社がスポンサー契約を結ぶ倉橋選手(*1)が使用する熱気球で、蒲郡市内の中学校で熱気球教室を実施しました。

熱気球教室では、バーナーの操作体験や熱気球の構造、競技について紹介したほか、児童の皆さんに係留搭乗(*2)を体験していただきました。

*1: 当社は2014年、蒲郡市出身の熱気球パイロット倉橋朋子氏とスポンサー契約を締結しました。詳細は、下記リンク先よりご覧ください。
(<http://www.nidek.co.jp/news-event/news/20140605.html>)

*2: 熱気球をケーブルで車につないだ状態で搭乗し、10メートルほど浮上させること。



係留搭乗の様子。児童の皆さんからは「楽しかった」「高かった」と感想を頂きました。



バーナー操作体験の様子。

●「蒲郡市生命の海科学館」で科学教室を実施

蒲郡市生命の海科学館が主催する、夏休み期間の子供向けイベントにて、「物が逆さまに見える!? 不思議な筒を作ろう」と題し、ワークショップを開催しました。当社としては、7回目の参加です。今回は、ピンホール現象を利用した“物が逆さまに見える不思議な筒”を参加者の皆さんに製作していただきました。当社では、多くの方に目に関心を持っていただけるよう、さらに活動内容や活動方法を工夫し、今後も尽力します。



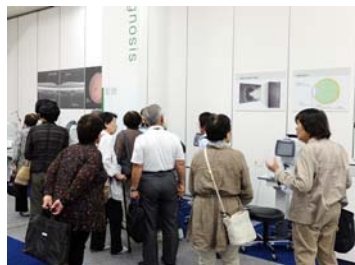
工作の前に、当社の概要や目の構造について皆さんにお話ししました。

●日本障害者セーリング協会へ協賛

2016年11月、地域支援企業として日本障害者セーリング協会へ協賛しました。この協会は、愛知県蒲郡市にパラリンピックセーリングのベースキャンプを作り、世界選手権を目指す取り組みをおこなっています。

●会社見学を実施

蒲郡市内の小中高生、企業の方々を対象とした会社見学では、当社製品や製造現場をご紹介します。本取り組みを通じて、地域の方々とのコミュニケーションを図っています。



様々な年代の方が見学にいらしています。

●愛知県内の小学校にて出前授業「目のおはなし」を実施

地域貢献の一環として、目について興味を持っていただけるよう、小中学校向けの講演活動を実施しています。“盲点(*3)”を探す体験や自身の“利き目”を確認し、目の構造や「近視」、「遠視」、「乱視」などを紹介しました。また、睡眠の質を高めるために、スマートフォンや携帯ゲーム機との付き合い方など、生活習慣の改善を促しました。

*3: 眼の奥で、視神経が集まって束になっている視神経乳頭(ししんけいにゅうとう)という部分にある。視神経乳頭には光を感じる細胞(視細胞)がないため、この部分に集まった光は、信号として脳まで届かず、脳では「見えない」と判断される。



説明だけでなく、児童の皆さんとゲームをしながら、楽しく学べるよう講演をおこなっています。



講演の中では、生徒の皆さんにご参加いただく場面もあり、楽しんでいただいています。